

平成 29 年度

教育委員会の点検及び評価報告書

平成 30 年 8 月

いなべ市教育委員会

は じ め に

教育委員会制度は、地方公共団体の長が地域の実情に応じて策定した教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱をもとに、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本の方針に沿って、教育長及び事務局が広範かつ専門的に教育行政事務を執行するものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価をすることとし、その際に、教育に関する学識経験者の知見の活用を図ることと定めています。

いなべ市教育委員会では、毎年、教育委員会の主要な施策をまとめた「いなべ市教育要覧」を作成し、公表しています。「いなべ市教育要覧」を資料とし、平成 29 年度の教育委員会の施策について、学識経験者から、事務の課題や今後の改善方策等について意見をいただきました。ここに、その点検評価の結果を報告します。

この評価をもとに、今後も本市の教育行政がより充実したものになるよう、取り組みを進めていきます。

平成 30 年 8 月 いなべ市教育委員会

目 次

教育総務課に関する事業	1
教育委員会委員事業	1
公立小学校施設整備事業	2
公立中学校施設整備事業	3
公立小学校施設維持管理事業	4
公立中学校施設維持管理事業	5
学校給食施設維持管理事業	6
学校給食施設整備事業	7
学校教育課に関する事業	8
不登校児童・生徒対策事業	8
特別支援学級児童・生徒交流事業	9
児童・生徒特別支援推進事業	10
生徒指導事業	11
人権教育推進事業	12
学力フォローアップ事業	13
教育振興事業	14
外国人英語指導事業	15
小中一貫教育推進事業	16
未来いなべ科推進事業	17
P T A 連合会事業	18
コミュニティスクール推進事業	19
学援隊事業	20
通学バス運行事業	21
学校図書館事業	22
研究指定校事業	23
教育内容充実事業	24
教育研究所事業	25
放課後児童健全育成事業	26
生涯学習課に関する事業	27
青少年健全育成市民活動事業	27
放課後子ども教室事業	28
国際交流活動支援事業	29
生涯学習活動推進事業	30
文化施設等管理運営事業	31
図書館利用促進事業	32
文化芸術活動推進事業	33
埋蔵文化財調査記録保存事業	34
国重要文化財等保存活用促進事業	35
地域スポーツ推進事業	36
スポーツ施設管理運営事業	37
自然学習室に関する事業	38
藤原岳自然科学館博物展示事業	38
藤原岳自然科学館自然教室事業	39
屋根のない学校事業	40
学識経験者の意見	41

教育振興ビジョン 基本理念	
事業名	教育委員会委員事業
事業の目的	教育委員会を通して、市としての教育方針を決定し、教育関係の諸問題への対応を検討する。
事業の概要	年間 12 回の定例会のほか、数回の臨時会を開催する。
H29 年度 の事業内容	定例会及び臨時会の開催
事業の実績・成果	
<p>(1)教育委員報酬(年額) 120,000 円×5 人</p> <p>(2)教育委員会の点検及び評価 点検評価委員報償費 7,000 円×3 人</p> <p>(3)教育委員会開催回数 定例会 12 回、教育施設の視察 7 回、臨時会 1 回</p> <p>(4)平成 29 年度いなべ市総合教育会議 会議内容 子どもたちをより伸ばすための教育のあり方について</p> <p>(5)研修及び総会 平成 29 年度三重県市町教育委員会関係三団体総会 平成 29 年度三重県市町教育委員会教育委員等研修会 三重の教育談義 市町村教育委員研究協議会</p>	
事業の総合評価	
<p>平成 27 年 4 月 1 日に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に沿って、教育委員会事務局がその事務を執行している。</p> <p>教育委員の定数は、条例に定められており人件費削減の余地はない。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	公立小学校施設整備事業
事業の目的	学校施設の経年による改修更新を行うことにより、施設の延命を図る。
事業の概要	公立小学校 11 校における学校施設の整備改修及び設備更新
H29 年度 の事業内容	笠間小学校改築工事 空調設備取替工事、教室間仕切り工事等
事業の実績・成果	
<p>(1) 笠間小学校仮設校舎建設工事 請負業者 日東工営株式会社名古屋支店</p> <p>(2) 笠間小学校改築工事 請負業者 西松建設株式会社中部支店</p> <p>(3) 非構造部材等耐震対策工事調査業務委託料 市内小学校8校実施 調査小学校 十社小学校(校舎棟、体育館棟)、治田小学校(校舎棟、体育館棟)、 山郷小学校(校舎棟、体育館棟)、員弁西小学校(校舎棟、体育館棟) 員弁東小学校(校舎棟、体育館棟)、石榑小学校(校舎棟、体育館棟) 丹生川小学校(校舎棟、体育館棟)、三里小学校(校舎棟、体育館棟)</p> <p>(4) 校舎緊急修繕工事(雨漏り、破損等を各小学校で実施) 阿下喜小学校 プールろ過タンク取替修繕工事、空調設備取替修繕工事 治田小学校 空調設備取替修繕工事 石榑小学校 多目的教室間仕切り工事 三里小学校 普通教室間仕切り工事、空調設備取替修繕工事</p>	
事業の総合評価	
<p>文部科学省から要請のある学校施設の環境整備事業は、市の財政上の都合により達成が困難なことがある。しかし、施設や設備の老朽化に伴う雨漏りや破損等緊急性の高い事業については、早急に対応ができていたため、今後の方向性は現状維持とした。</p> <p>笠間小学校校舎建設工事に係る監理業務及び工事費については、公共建築課に執行委任し、教育総務課は、学校、業者及び地域との調整を行った。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	公立中学校施設整備事業
事業の目的	学校施設の経年による改修更新を行うことにより、施設の延命を図る。
事業の概要	公立中学校 4 校における学校施設の整備改修及び設備更新
H29 年度 の事業内容	空調設備、電話機及びエレベーターロープ取替工事、フェンス修繕工事等
事業の実績・成果	
<p>(1) 大安中学校体育館照明設備取替等改修工事設計</p> <p>(2) 非構造部材等耐震対策工事調査業務 調査中学校 北勢中学校(校舎棟、体育館棟)、藤原中学校(校舎棟、体育館棟) 大安中学校(体育館棟)</p> <p>(3) 校舎緊急修繕工事(雨漏り、破損等を各中学校で実施) 北勢中学校 空調設備取替工事、電話機取替工事 員弁中学校 テニスコートフェンス修繕工事(Ⅰ期、Ⅱ期) 藤原中学校 エレベーターロープ取替工事</p>	
事業の総合評価	
<p>文部科学省から要請のある学校施設の環境整備事業は、市の財政上の都合により達成が困難なことがある。しかし、施設や設備の老朽化に伴う雨漏りや破損等緊急性の高い事業については、早急に対応ができていたため、今後の方向性は現状維持とした。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	公立小学校施設維持管理事業
事業の目的	児童が安心して過せる学校施設を適正に維持管理する。
事業の概要	(1)公立小学校 11 校の施設管理及び保守点検 (2)建物と設備の修繕
H29 年度 の事業内容	施設維持管理の継続
事業の実績・成果	
<p>(1)保守管理委託</p> <ul style="list-style-type: none"> エレベーター保守点検 自家用電気工作物保安管理(笠間小学校除く。) 警備保障(藤原小学校除く。) 受水槽清掃 運動場整備 ごみ収集 校舎等床面清掃(笠間小学校除く。) プールろ過機保守点検 体育用具遊具保守点検 グリストラップ清掃 消防設備等保守点検 <p>(2)校舎緊急修繕工事(雨漏り、破損等に対応)</p> <p>(3)小学校備品購入</p> <ul style="list-style-type: none"> 丹生川小学校児童用椅子購入、小中学校管理備品購入(小学校分) 	
事業の総合評価	
<p>学校の環境整備は、地域住民からの要望も踏まえ、柔軟に対応していることで地域住民の満足度も高い。今後も学校(保護者)の協力を経て、学校環境をさらに向上させていく。</p> <p>施設の保守管理については、専門業者による点検、整備等を行っている。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	公立中学校施設維持管理事業
事業の目的	児童が安心して過せる学校施設を適正に維持管理する。
事業の概要	(1)公立中学校4校の施設管理及び保守点検 (2)建物と設備の修繕
H29 年度 の事業内容	施設維持管理の継続
事業の実績・成果	
<p>(1)保守管理委託</p> <ul style="list-style-type: none"> エレベーター保守点検(員弁中学校除く。) 自家用電気工作物保安管理 警備保障 受水槽清掃 運動場整備 ごみ収集 校舎等床面清掃 体育用具遊具保守点検 消防設備等保守点検 <p>(2)校舎緊急修繕工事(雨漏り、破損等に対応)</p> <p>(3)中学校備品購入費</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校管理備品購入(中学校分) 	
事業の総合評価	
<p>学校の環境整備は、地域住民からの要望も踏まえ、柔軟に対応していることで地域住民の満足度も高い。今後も学校(保護者)の協力を経て、学校環境をさらに向上させていく。</p> <p>施設の保守管理については、専門業者による点検、整備等を行っている。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	学校給食施設維持管理事業
事業の目的	安全、安心、安定した学校給食の供給を行う。
事業の概要	(1)大安学校給食センター 大安町及び員弁町内小中学校へ配送 (2)藤原学校給食センター 藤原町内小中学校と北勢中学校へ配送 (3)北勢町内小学校は自校式給食を実施
H29 年度 の事業内容	(1)学校給食センター及び自校式給食施設の運営、維持管理 (2)病虫害防除及び換気扇清掃委託 (3)グリストラップ清掃、ごみ収集業務
事業の実績・成果	
<p>(1)事務事業委託</p> <p>ア 調理業務委託</p> <p>大安学校給食センター 3年契約(平成 28、29、30 年度) 委託業者 メーキュー株式会社 藤原学校給食センター 3年契約(平成 29、30、31 年度) 委託業者 株式会社魚国総本社</p> <p>イ 米飯給食委託</p> <p>大安学校給食センター、藤原学校給食センター 委託業者 ミエライスサービス株式会社</p> <p>(2)給食センター保守管理その他保守管理</p> <p>大安学校給食センター</p> <p>生ごみ処理装置保守管理、厨房機器点検、害虫防除委託、グリストラップ清掃委託</p> <p>藤原学校給食センター</p> <p>一般廃棄物収集運搬委託、厨房機器点検、害虫防除委託</p> <p>北勢地区4小学校(自校式)</p> <p>害虫防除委託、換気扇清掃業務委託</p>	
事業の総合評価	
<p>北勢地区4小学校の学校給食は現在自校式で行っているが、施設の老朽化など課題が多い。食の安全性の観点から、今後は学校給食センターに統合する方向で検討が必要である。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	学校給食施設整備事業
事業の目的	学校給食施設の改修更新を行うことにより、施設の延命を図る。
事業の概要	藤原給食センター設備更新事業 平成 28 年度 ボイラー蒸気配管更新工事設計 平成 29 年度 ボイラー蒸気配管更新工事(監理料含む。)
H29 年度 の事業内容	ボイラー蒸気配管更新工事
事業の実績・成果	
<p>(1) 藤原学校給食センター蒸気配管等改修工事</p> <p>藤原学校給食センターは、建設後約 15 年が経過し、設備の老朽化が著しく、蒸気配管が蒸気漏れを発生した。学校給食の安定的な提供に支障を来す恐れがあるため、夏休み期間中にボイラー室から各厨房機器へ接続する蒸気配管及びそれに付随する弁類の更新を行なった。</p> <p>工事は、9月の給食再開日までに行うことができた。既設の鋼管と比べ、より強度が高く、耐用年数の長いステンレス鋼管に更新したことで、学校給食をより安定的に提供できるようになった。</p> <p>また、塗装が剥がれかけていた調理室及び冷凍庫床を再塗装したことで、異物混入のリスクを軽減し、衛生面においても質の向上を図った。</p> <p>(2) 藤原学校給食センター昇降機部品取替工事を行った。</p>	
事業の総合評価	
<p>学校給食設備の改修及び更新については、配食に影響が出ないように時期や工期を設定することが難しく、また緊急に修繕の必要性が生じる場合もあるため、維持管理費に係る予算の計上も難しいが、本年度は、計画的に取替工事や修繕を行うことができた。</p> <p>大安学校給食センター及び藤原学校給食センターは、修繕箇所も多くみられ、施設維持管理に費用がかかる。学校給食の方向性を児童数及び生徒数の推移に合わせ、適正な施設整備を計画的に行っていく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	不登校児童・生徒対策事業
事業の目的	教育相談を充実させ、児童、生徒及び保護者の悩みを解消し、学校復帰を図る。
事業の概要	(1)「ふれあい教室」の活動を充実させ、不登校児童及び生徒の減少を図る。 (2)教育相談、巡回相談を充実させ、不登校の未然防止を図る。
H29 年度 の事業内容	(1)ふれあい教室の活動 (2)相談事業の実施(指導員及び臨床心理士による相談、事例検討会、研修会等)
事業の実績・成果	
<p>不登校、問題行動等様々な問題を抱える子どもとその保護者を支援するために「いなべ・東員教育支援センター(ふれあい教室)」を設置している。不登校児童及び生徒の居場所づくり、教育相談を充実させ、児童、生徒及び保護者の悩みを解消し、学校に復帰させる取り組みを進めている。また、専門家による相談や臨床心理士による事例検討会や研修会を通して、不登校の未然防止に努めている。</p> <p>(1)主な活動内容及び月別対応人数</p> <p>4月 学習、集団遊び、調理実習、教室外活動(森の広場博物館) 9人 5月 学習、園芸作業、集団遊び、調理実習 11人 6月 学習、調理実習、ALT 英語活動、和太鼓体験、梅ちぎり体験、集団遊び 12人 7月 学習、集団遊び、調理実習 12人 9月 学習、調理実習、教室外活動(阿下喜散策、集団遊び、デイキャンプ) 12人 10月 学習、調理実習、和太鼓体験、焼き芋、バトミントン 14人 11月 学習、調理実習、教室外活動(バトミントン、バスケ)、ALT 英語活動 15人 12月 学習、調理実習、教室外活動(六華苑)、リース作り 17人 1月 学習、調理実習、ペンキ塗り、初詣、正月遊び 18人 2月 学習、調理実習、ペンキ塗り、教室外活動(和太鼓体験) 21人 3月 学習、調理実習、卒業を祝う会、阿下喜のおひなさん見学 23人</p> <p>(2)学校へ復帰した割合 47.8%</p>	
事業の総合評価	
<p>保護者及び教職員の支援を必要とするケースが増えている。保護者の教育相談を充実させるとともに、不登校児童及び生徒の早期復帰や問題行動の解決を目指していく。今後も、スクールソーシャルワーカーや県から派遣されているスクールカウンセラーを活用するとともに、家庭児童相談室、発達支援課、教育支援センターと連携を深めていく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	特別支援学級児童・生徒交流事業
事業の目的	中学校区別に集う機会を持つことで、同じ地域で生活する者として交流し、コミュニケーション力や社会性を育成する。また、教師間の情報共有及び小中連携を図る。
事業の概要	(1) 特別支援学級在籍児童及び生徒が、中学校区別の行事を通して交流する機会を持つ。 (2) 交流活動に伴う経費を補助する。 (3) あすなろキャンプ及びあすなろ運動会を支援する。
H29 年度 の事業内容	(1) 交流活動に伴う経費を補助する。 (2) あすなろキャンプ及びあすなろ運動会を支援する。
事業の実績・成果	
<p>各校における特別支援学級在籍児童生徒は少人数であるため、同じ障害を持つ仲間と交流する機会を確保し、交流活動に伴う経費の補助を行った。</p> <p>中学校区別に集い交流することで、コミュニケーション力や社会性を育成できている。また、教師間での情報共有ができ、小中連携の点からも大事な機会となっている。</p> <p>(1) 活動内容</p> <p>ア 中学校区別行事(特別支援学級在籍児童及び生徒が中学校区別に交流)</p> <p>イ あすなろキャンプ(ボウリング、ヨーヨー釣り、ストラックアウト、サイバーボール、ビーズアクセサリ他)</p> <p>ウ あすなろ運動会(ジャンケン列車、キャタピラレース、らくちんらくちん、玉入れ、トンネルくぐり)</p> <p>(2) 開催日及び参加人数</p> <p>ア あすなろキャンプ 8月6日(日) 員弁東小学校 参加者合計 329 人</p> <p>イ あすなろ運動会 10月6日(金) 大安スポーツ公園体育館 参加者合計 143 人</p> <p>(3) 交流会参加校割合(該当小中学校全学校が参加して交流) 100%</p>	
事業の総合評価	
<p>中学校区内及び中学校区間の交流と情報交換が実施できた。児童及び生徒がより生きる力を育むための体験活動や、情緒的発達を促す交流活動を充実させることは重要である。今後も、児童及び生徒の安全確保に留意し、継続して実施していく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	児童・生徒特別支援推進事業
事業の目的	合理的配慮や個別支援により、児童一人ひとりに応じた特別支援教育の推進を通して、子どもの確かな学力、豊かな心の育成を図る。
事業の概要	特別支援学級籍児童及び生徒、日本語指導を要する外国籍児童及び生徒を中心に、個別の指導計画に基づいた特別支援学級又は普通学級における教育活動を、人的(支援員、国際化対応指導員)、物的(消耗品、教材備品等)などの面から、推進するとともに支援する。
H29 年度 の事業内容	(1) 個別的支援を必要とする児童及び生徒の指導、支援を行う。 (2) 個別的支援を必要とする児童及び生徒の通級指導の支援を行う。 (3) 特別支援学級籍児童及び生徒の介助を行う支援員を配置する。
事業の実績・成果	
<p>発達特性に応じた個別的支援の充実や安全確保を図るため、小中学校に支援員を配置した。また、成育歴における言語環境により、個別的支援が必要な児童及び生徒や保護者のため、小学校に国際化対応指導員(ポルトガル語、スペイン語)を、中学校に国際化対応指導員(ポルトガル語)を配置した。</p> <p>(1) 配置状況</p> <p>ア 支援員 10 小学校に 29 人 3 中学校に 8 人</p> <p>イ 国際化対応指導員 3 小学校に 5 人 1 中学校に 2 人</p> <p>(2) 成果</p> <p>支援員の配置により、安全確保が図られた。学習や人間関係の構築において円滑な指導や支援が行われ、よりよい教育活動の展開につながっている。</p> <p>また、国際化対応指導員の配置によって、日本語指導が必要な児童及び生徒への指導やその保護者への連絡等、学校及び教員の意図がより伝わるようになり、教育効果を高めることができた。</p>	
事業の総合評価	
児童それぞれの発達特性に即した個別の支援計画に基づいた指導、支援を実現するためには、人的な支援が欠かせない。また、外国籍児童の転入増加が今後も予想されることから、ポルトガル語を中心に児童及び生徒や家庭への言語面での支援体制を維持していく。	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	生徒指導事業
事業の目的	(1) 事故、問題行動の未然防止及び迅速な対応を行い、生徒の安全安心を確保するとともに、保護者及び地域との信頼関係を醸成する。 (2) 的確で丁寧な進路指導を行い、一人一人の進路決定を支援する。
事業の概要	(1) 生活指導 家庭訪問、登下校指導、防犯パトロールその他必要に応じ補導等の指導を行う。問題行動等の解決に向けて、学校の支援を行う。 (2) 生徒指導、進路指導に対する補助金の支給 進路指導便覧(資料)購入費 払込手数料、願書・指導要録郵送料 入試問題集、進路関連図書購入費 入試説明会、出願手続き、入試引率等の旅費 消耗品費 進路に関わる夜間家庭訪問旅費
H29 年度 の事業内容	生徒指導特別指導員(2人)を配置し、各校の訪問及び市内各所を巡回し、生徒指導等の学校支援を行う。
事業の実績・成果	
(1) 生徒指導特別指導員の配置 児童及び生徒の安全安心を確保するとともに、保護者や地域との信頼関係の確立に向けて、事故や問題行動等の未然防止及び迅速な対応を行うために、「生徒指導特別指導員」として、元中学校長と元警察官の2人を配置した。両名とも豊富な知識と経験を活かして、市内の全小中学校を定期的に訪問し、登下校指導、授業参観、休み時間等の巡回を通じて、生徒指導を実施した。また、問題行動の未然防止策や発生した事案への対応等、迅速かつ適切な行動が取れるように、学校に対して指導や助言を行った。さらに、中学校のテスト期間や長期休業期間中等に大型商業施設等を巡回し、防犯パトロールを実施した。生徒指導特別指導員の活動日数は144日(年間)であった。	
(2) 生徒指導及び進路指導に対する補助金 市内中学校に対して、生徒指導及び進路指導に必要な経費の補助を行った。	
事業の総合評価	
小中学校における問題行動は、学校の荒れにつながり、保護者や地域住民の学校に対する信頼を著しく損なうことになる。そのような状況にならないようにするためには、問題行動の未然防止が特に重要である。また、進路指導もこれからのいなべ市を担っていく人材を育てていくうえで、必要不可欠である。今後、的確かつ迅速に生徒指導及び進路指導を実施し、未来を担う子どもを育てる体制づくりを行う。	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	人権教育推進事業
事業の目的	研究会への参加及び研修会の実施により、中学校区で共通に取り組む課題に対し、保小中が同じ視点で系統的及び継続的に人権教育を行う状況を作る。
事業の概要	(1)子どもの育ちを人権の視点で捉え、中学校区において保小中の連携を進めるための研修会を実施する。 (2)員弁地区の小中学校の児童及び生徒が集まり、各校の取り組みにおける交流やいじめなど、身近な人権問題について話し合う員弁地区人権フォーラムを開催する。 (3)途切れのない支援の実現に向けた各小学校教職員による保育参観を実施する。 (4)三重県人権教育研究協議会の団体会員に登録し、「せいかつ実践交流会」「研究大会」「分野別大会」に参加する。「講演収録」を購読し、全職員へ周知する。
H29 年度 の事業内容	(1)人権教育研修会、保育参観の実施 (2)員弁地区人権フォーラムの開催 (3)三重県人権教育研究大会等への参加
事業の実績・成果	
<p>小中学校の人権教育の充実を図るため、次の4点について取り組んだ。このことによって、豊かな感性と人間性を育み、人権についての科学的な認識を深めた。さらに、仲間とともに一人ひとりの人権が尊重される社会をつくる実践力を育む機会を創り出すことができた。</p> <p>(1)中学校区においての小中連携強化 人権教育研修会の実施 平成 29 年8月 22 日(火) 講師 石川結貴氏 全教職員で、ネットや SNS に潜む人権侵害や解決法等について学ぶことができた。</p> <p>(2)員弁地区の児童生徒による人権問題について話し合う機会の創出 ア 員弁地区小学校人権フォーラム 平成 29 年 11 月 29 日(水) 員弁コミュニティプラザ イ 員弁地区中学校人権フォーラム 平成 29 年 12 月6日(水) 員弁コミュニティプラザ 各小中学校の代表児童生徒が参加し、各校の様子や身近な問題をテーマに解決策等を話し合った。</p> <p>(3)途切れのない支援に向けた小学校と保育園の交流 夏季休業期間中、各小学校の担当者が各保育園を見学し、園児の様子等を交流した。</p> <p>(4)三重県人権教育研究協議会の団体会員登録及び、研修会等への参加 三重県人権教育研究大会 平成 29 年 10 月 14 日(土)、15 日(日) 県内の人権教育の実践等の発表を通じて、人権意識の向上を図ることができた。</p>	
事業の総合評価	
講演会及び研修会により人権意識の啓発を図ることができた。今後は、人権教育推進上の課題を共有するとともに、人権教育カリキュラムに基づく計画的な実践が求められる。	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	学力フォローアップ事業
事業の目的	学力、学習状況及び学級の実態を的確に把握するとともに、基礎の徹底と活用力を伸ばし、学力向上に対する効果的な取り組みを図る。
事業の概要	(1)全国学力標準検査(NRT)の実施) 全学年対象 小学校(国・算・理)、中学校(国・算・英・理・社) (2)学級満足度調査(Q-U)の実施 学級の状態を把握するためのアンケート調査 (3)学力向上特別指導員による巡回指導 (4)いなべ学び舎事業の充実
H29 年度 の事業内容	(1)全国学力標準検査(NRT)の分析による授業改善の実施、学級満足度調査(Q-U)研修会の実施 (2)授業力及び指導力向上のための指導 (3)学び舎の充実(阿下喜小学校、三里小学校)
事業の実績・成果	
<p>社会の様々な変化に生涯を通じて主体的に対応できる「生きる力」を育成することをめざし、学力、学習状況及び学級の実態を的確に把握することで基礎の徹底と活用力を伸ばし、学力向上に対する効果的な取り組みを行った。</p> <p>(1)全国学力標準検査(NRT)の実施人数 小学校(国語、算数2年生～6年生)1,548 人、小学校(理科4年生～6年生)1,038 人 中学校(国語、数学、社会、理科 1年生～3年生)1,165 人、中学校(英語2年生～3年生)767 人</p> <p>(2)学級満足度調査(Q-U)の実施人数 小学校(前期2年生～6年生)2,009 人、中学校(前期1年生～3年生)1,199 人 小学校(後期1年生～6年生)2,391 人、中学校(後期1年生～3年生)1,195 人</p> <p>(3)学力向上特別指導員(2人)による巡回指導 1学期訪問回数(のべ)60 校、2学期訪問回数(のべ)60 校、3学期訪問回数(のべ)30 校</p> <p>(4)学び舎の充実(阿下喜小学校、三里小学校) 阿下喜小学校 年間 65 日 受講者数(のべ)3,685 人 三里小学校 年間 46 日 受講者数(のべ)2,451 人</p> <p>(5)学級満足度調査(Q-U)研修会の実施 6月12日(月) 参加者数 111 人、 8月23日(水) 参加者数 82 人</p>	
事業の総合評価	
<p>学力向上の施策について、評価、分析、実践の3つの観点から幅広く取り組むことができた。今後も、全国学力標準検査(NRT)に取り組むことで、経年の学力分析に加え継続的に学力向上の取組を進めていく。学び舎事業については、今後も、拡充する方策を検討していきたい。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	教育振興事業
事業の目的	授業改善、特色ある教育の発展とともに、特別支援教育、少人数教育など、個々のニーズに合ったよりきめ細やかな教育を進めていく課題がある中、学習環境を整備し、きめ細かな学習により教育水準、学力を向上させる。
事業の概要	(1) 学習環境整備 (2) 非常勤講師の配置
H29 年度 の事業内容	きめ細やかな教育活動が展開できるよう、ニーズの高い学校に非常勤講師、スクールサポーターを配置した。 特色ある教育の進展を目標に、新たな教材や学習資料、備品等の学習環境を整備した。
事業の実績・成果	
<p>(1) スクールサポーターの配置について</p> <p>小学校 配置学校数 9校 配置人数 9人 中学校 配置学校数 4校 配置人数 6人</p> <p>(2) 非常勤講師の配置について</p> <p>小学校 少人数教育を支援するための非常勤講師 1人 特別支援対応のための非常勤講師 2人 英語教育を推進するための非常勤講師 4人 中学校 少人数教育を支援するための非常勤講師 2人 教科指導を充足させるための非常勤講師 3人</p> <p>(3) 教材備品等の整備</p> <p>小学校 電子黒板購入 7,581,600 円 9台(9校) 書画カメラ購入 293,760 円 9台(9校) 理科教育振興備品購入 1,134,000 円 百葉箱、冷凍冷蔵庫、顕微鏡、人体模型 他 中学校 電子黒板購入 3,369,600 円 4台(4校) 理科教育振興備品購入 2,847,366 円 顕微鏡、滑車実験、人体模型、骨格模型 他</p>	
事業の総合評価	
<p>児童及び生徒一人ひとりにきめ細かな教育を行い、学力向上を図るために欠かせない人的支援は、今後もニーズが高まり続けることが予想される。外国語(英語)教育等の課題に対応する体制を整備するために、人的支援の必要性がある。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	外国人英語指導事業
事業の目的	外国人英語指導助手(ALT)による英語指導により、中学校生徒の英語科学力向上と小中学校児童及び生徒のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。
事業の概要	(1)5人のALTを小学校と中学校に配置、内1人は小学校のみに配置する。 (2)小学校外国語活動及び中学校英語科の授業を実施する。 (3)ふれあうことによるコミュニケーション能力を育成する。 (4)異文化に触れ、国際理解教育を行う。
H29 年度 の事業内容	(1)外国人英語指導助手派遣業務 (2)次期学習指導要領実施に向けて、カリキュラム編成委員会の発足や研修会の実施
事業の実績・成果	
<p>外国語活動・英語教育を充実させるために、外国人英語指導助手(ALT)を各校に配置し、中学校生徒の英語科学力向上と小中学校児童生徒のコミュニケーション能力のさらなる向上を図った。</p> <p>(1)外国人英語指導助手(ALT)による英語指導内容</p> <p>ア 5人のALTを小学校と中学校に配置、内1人は小学校のみに配置した。</p> <p>イ 小学校外国語活動及び中学校英語科の授業を担当と ALT と共に実施した。</p> <p>ウ ALT と直にふれあうことによるコミュニケーション能力の育成を図った。</p> <p>エ 異文化に触れ、国際理解教育を行う。</p> <p>(2)外国人英語指導助手(ALT)配置時間数</p> <p>小学校5、6年生 ALT 活用授業時数 35 時間(年間、1学級当たり)</p> <p>中学校 ALT 活用授業時数 35 時間以上(年間、1学級当たり)</p> <p>(3)外国人英語指導助手(ALT)活動日数(5人合計)</p> <p>4月(75日) 5月(70日) 6月(109日) 7月(64日) 9月(108日) 10月(105日) 11月(100日)</p> <p>12月(79日) 1月(18日) 2月(91日) 3月(79日)</p> <p>(4)教員向け研修の実施</p> <p>全8回</p>	
事業の総合評価	
<p>いなべ市では平成 19 年度からプロポーザル方式で外国人英語指導助手派遣業者を選定してきた。平成 21 年度からは、委託契約から派遣契約に切り替え、授業者と ALT が十分に連携して、よりよい外国語活動が行えるように支援してきた。質の高い ALT の確保が課題であるので、今後は、契約会社と十分に話し合い、契約期間を複数年にしていく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	小中一貫教育推進事業
事業の目的	義務教育を9年間という大きなまとまりで捉え、一人ひとりの資質や能力、個性を十分に発揮させる効果的な仕組みづくりを行う
事業の概要	(1)各校への非常勤講師の配置 (2)小中一貫サミットへの参加 (3)先進地視察
H29 年度 の事業内容	各中学校区の小中学校1校ずつに非常勤講師(計8人)を配置し、小中一貫教育の研究を推進させる。
事業の実績・成果	
<p>いなべの明日を担う心豊かでたくましい子どもの育成をめざし、個を高め、集団を成熟させる「一人力・仲間力」を基盤とした「生き抜く力・生き合う力・生き拓く力」を育てるために、小中一貫教育を手法とした教育の在り方について、研究、推進した。</p> <p>(1)いなべ市小中一貫教育推進委員会の開催(略称 INB9) 年間6回 (2)中学校区小中一貫教育推進 WG 会議の開催 各中学校区 18 回 (3)いなべ市小中一貫教育保護者リーフレットの発行 いなべ市の進める小中一貫教育について、取り組みの概要を保護者と地域の皆様にお知らせした。</p> <p>(4)いなべ市「新しい学校づくり」基本方針の策定(平成 29 年4月1日) いなべ市がめざす小中一貫教育の考え方や推進内容を示した。</p> <p>(5)小中一貫教育研究発表会の開催 藤原中学校区 11 月8日(水)参加者 177 人、員弁中学校区 11 月 10 日(金)参加者 121 人</p> <p>(6)視察の受入れ(藤原小・中学校) 5月 29 日(月)桑名市教育委員会、6月 2 日(金)伊勢市教育委員会 8月 1 日(火)桑名市市議会議員、12 月 14 日(木)桑名市社会福祉協議会</p> <p>(7)小中一貫教育実施要領の制定(平成 30 年4月1日施行) 「新しい学校づくり」基本方針を受けて、いなべ市の小中一貫教育の目標や内容、推進体制、成果指標を定めた、小中一貫教育実施要領を制定した。</p>	
事業の総合評価	
<p>小中一貫教育の推進は、年次計画を定め、条件整備はもとより推進体制を整えることができた。今年度は、員弁中学校区、藤原中学校区の2中学校区での本格実施スタートとなり、秋の研究発表会では、多くの方に参観いただき、盛況に開催することができた。義務教育9年間の教育に責任をもち、系統的継続的に教育を推進していく手法が位置づいてきている。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	1 「豊かな心・確かな学力・健やかな体」の育成
事業名	未来いなべ科推進事業
事業の目的	未来いなべ科カリキュラムに基づくキャリア教育の充実、地域の特色を生かした教材及び人材の活用、追求学習・問題解決学習により進路を切り拓く力を育む。
事業の概要	総合的な学習の時間を中心に、子どもが未来に向かって学び続ける力を育成するための学習支援を行う。
H29 年度 の事業内容	(1) ゲストティーチャーの招聘、体験活動の促進 (2) 学習のまとめ及び発表体験の充実 (3) 演劇鑑賞、音楽鑑賞等の実施の支援
事業の実績・成果	
<p>「生き抜く力・生き合う力・生き拓く力」を育むため、総合的な学習の時間を中心に取り組みを行った。キャリア教育の視点を中心に据えた新しいカリキュラム「未来いなべ科」に基づき、キャリア教育の充実、地域の特色を生かした教材及び人材の活用、追求学習及び問題解決学習により進路を切り拓く力を育むことができた。</p> <p>(1) 年度当初に各校の事業計画及び予算書を精査し、ヒアリングにおいて確認のうえ配当金額を決定した。事業終了後は、実施内容、成果、課題を記載した実施報告書の提出を求め、次年度の取り組みに反映させた。</p> <p>(2) 活動実績</p> <p>ア ゲストティーチャーの招聘、体験学習の促進 招聘した学校数 11 校 体験活動を実施した学校数 11 校</p> <p>イ 学習のまとめ及び発表体験の充実 学習発表会を実施した学校数 11 校</p> <p>ウ 演劇鑑賞、音楽鑑賞等の実施支援</p>	
事業の総合評価	
<p>全ての小学校で地域教材を活用し、ゲストティーチャーを招聘し、数多くの人の生き方に触れることができた。体験学習や発表会等を通して、コミュニケーション力の向上を図ることができた。今後は、学校運営協議会と協働し、さらなる市民参画を促進していきたい。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	PTA連合会事業
事業の目的	子どもを取り巻く教育環境が急激に変容し、家庭及び地域の教育力も低下しつつある中、安全安心の確保が求められている。さらに、子どもたちを守り育てるというPTAの使命及び役割の自覚を深め、会員相互の連携を強化する。
事業の概要	PTA連合会主催による講演会経費の補助
H29 年度 の事業内容	市全体での子育て講演会と、中学校区ごとに情報モラルについての講演会を実施した。
事業の実績・成果	
<p>(1)PTA連合会の主催による講演会に参加したPTA会員数</p> <p>「叱らなくても子どもは伸びる」～目から鱗の子育てと家庭教育～ 親野智可等氏 平成 29 年7月2日(日)北勢市民会館さくらホール 参加人数 250 名</p> <p>(2)情報モラルについての講演会参加人数</p> <p>「スマホやネットに潜む危険」NIT情報技術推進ネットワーク株式会社 篠原嘉一氏</p> <p>北勢中学校区 5月 20日(土) 参加人数 児童生徒 370 人、保護者 35 人 員弁中学校区 1月 17日(水) 参加人数 児童生徒 364 人、保護者 100 人 大安中学校区 8月 9日(水) 参加人数 児童生徒 430 人、保護者 30 人 藤原中学校区 10月 21日(土) 参加人数 児童生徒 270 人、保護者 100 人</p>	
事業の総合評価	
<p>保護者や地域住民に、現在の家庭教育、学校教育の方向性を訴える機会として「子育て講演会」の機会 は非常に重要であるので、今後も、講演会参加者を増加させる取り組みを実施するとともに、保護者及び 地域住民のニーズに応じた講演会を企画していく必要がある。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	コミュニティスクール推進事業
事業の目的	(1)地域資源を活かした特色ある教育活動 (2)学校と家庭及び地域の連携による教育活動の充実 (3)地域の活性化、家庭及び地域の教育力の向上
事業の概要	学校運営協議会を開き、地域住民及び保護者等が学校運営について話し合う事によって、教育内容の充実をめざす。
H29 年度 の事業内容	(1)石榑小学校コミュニティスクールの継続 (2)藤原小学校コミュニティスクール導入準備
事業の実績・成果	
<p>地域の繋がりの希薄化による教育力の低下等の課題に対して、地域住民及び保護者等が学校運営について話し合う事によって、教育内容の充実をめざす。学校運営協議会(コミュニティスクール)を設置する石榑小学校に対し、事業推進のための活動費補助を行った。</p> <p>また、小学校の統合に伴う地域力の再編成を行うため、藤原小中学校において、「コミュニティスクールを考える会」を立ち上げ、コミュニティスクール(学校運営協議会)設置のための準備を行った。</p> <p>(1)石榑小学校学校コミュニティスクール概要 学校運営協議会(石榑の里共育委員会) 開催回数6回 石榑の里会議 石榑の里ボランティア部会 いっけ石榑っ子安全ネットワーク</p> <p>(2)藤原小学校コミュニティスクールを考える会概要 ア 藤原小学校コミュニティスクールを考える会 開催回数9回、学習支援の実施 イ その他 藤原小中学校コミュニティスクール準備委員会設置要綱の作成</p>	
事業の総合評価	
<p>「地域資源を活かした特色ある教育活動」「学校と家庭・地域の連携による教育活動の充実」「地域の活性化、家庭及び地域の教育力の向上」を目指し、計画的に学校運営協議会を開催した。今年度から5か年の間は、学校運営協議会設置は努力義務とされている。今後は、事業を拡大して、全校での設置を目指していく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	学援隊事業
事業の目的	各校のボランティアを「いなべ学援隊」として再編成し、学校を多方面から応援するシステムを構築するとともに、地域で力を学校を支える体制づくりを強化する。
事業の概要	(1)学校運営の支援 安全確保(登下校の見守り等) 校舎内外の環境整備(清掃、草刈り等) (2)教育活動(学び)の支援 (3)学校運営、教育活動支援に掛かる保険料の支払い
H29 年度 の事業内容	登録者への保険加入等の支援を行い、さらに新規の登録者を募る。
事業の実績・成果	
<p>各校のボランティアを「いなべ学援隊」として再編成し、学校を多方面から応援するシステムを構築した。地域で力を学校を支える体制づくりの強化を行っている。</p> <p>(1)登録人数 1,632 人(平成 29 年度末)</p> <p>(2)活動日数 市内小中学校において学援隊員が支援を行った日数</p> <p>学習支援(家庭科補助、ゲストティーチャー等)を行った日数 146 日</p> <p>農園支援(田植え、畑支援等)を行った日数 48 日</p> <p>文化・体験活動(手話教室、しめ縄作り等)支援を行った日数 187 日</p> <p>環境整備(草刈、剪定等)を行った日数 121 日</p> <p>行事(祭り、マラソン大会等)の支援を行った日数 27 日</p> <p>(3)保険料</p> <p>レクリエーション傷害保険 28,962 円</p> <p>損害保険 189,350 円</p>	
事業の総合評価	
<p>学習支援、登下校支援、環境整備、「子どもをまもる家」など、地域の人材を活用し、学校教育活動を支援することができた。今後も、地域の人材を発掘し把握するとともに、学校教育を支援する仕組みを充実させていく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	通学バス運行事業
事業の目的	遠距離通学者を対象にスクールバスを運行し、児童及び生徒が安心して過ごせる学校環境を確保する。
事業の概要	(1)通学バス運行に掛かる人件費の支払い (2)通学バス車両の維持管理
H29 年度 の事業内容	(1)通学バス運行に掛かる経費の支払い (2)運行ルートの見直し
事業の実績・成果	
<p>遠距離通学者を対象にスクールバスを運行し、児童及び生徒が安心して過ごせる教育環境を整えた。</p> <p>(1)運行ルート 員弁西小学校3ルート 十社小学校6ルート 北勢中学校1ルート、 藤原小中学校 10 ルート</p> <p>(2)車両台数 15 人乗り(定員 12 名)×9台 10 人乗り(定員8人)×4 台 29 人乗り×5台 60 人乗り×1台</p> <p>(3)委託先 ア 北勢・員弁ルート スクールバス運行业務 シルバー人材派遣センター 運行管理委託業務 シルバー人材派遣センター イ 藤原ルート 藤原小中学校スクールバス運行管理業務 三岐鉄道株式会社</p>	
事業の総合評価	
<p>平成 29 年度は藤原小学校の統合により、新たに藤原小学校ルートが加わった。ルート、時刻表、乗車人数などの調整に工夫を要したが、ほぼ予定通りの安全な運行を行うことができた。</p> <p>また、冬季の積雪対応は、委託業者及び学校との連絡調整を密に行い、安全な運行を実施することができた。運転士の確保、防災時の対応などについては、今後の課題である。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	学校図書館事業
事業の目的	学校独自の取り組みでは、学校図書館の充実や活用、教材購入に限界があり、情報収集も困難であるため、組織で情報交換及び研究を進める。
事業の概要	学校図書館の効率的な運用を目的に、図書館整備員によるデータベース化、NDC（日本十進分類法）による図書整理を行う。このことによって、図書の検索、集計、貸出及び返却の効率を高める。また、図書館コーディネーターを中心にブックトークなど読書推進の取り組みを行う。
H29 年度 の事業内容	(1) 図書館整備員による学校図書館の整備支援 (2) 図書館コーディネーターによるブックトークなど読書推進活動支援
事業の実績・成果	
<p>学校教育に必要な図書及び視聴覚資料の整備を進展させ、教育環境の充実を図った。</p> <p>学校独自の取組では、学校図書館の充実や活用、教材購入に限界があり、情報収集も困難であるため、組織で情報交換及び研究を進めた。</p> <p>(1) 学校図書館事業内容</p> <p>ア 図書館整備員による学校図書館の整備を支援した。</p> <p>イ 図書館コーディネーターによるブックトークなど読書推進活動を支援した。</p> <p>ウ 学校図書館の効率的な運用を目的に、データによる「日本十進分類法」による図書整理を行った。</p> <p>エ 学校の統合及び新校舎建築による図書室の引っ越し作業(藤原小中学校、笠間小学校)を行った。</p> <p>オ 旧藤原 5 小学校のリユースを行い、蔵書数の少ない学校への増冊および廃棄本を有効活用した。</p> <p>(2) 図書整備員による巡回整備学校数 15 校</p> <p>(3) 図書コーディネーターによるブックトークの実施回数</p> <p>1 年生5回、2 年生5回、3 年生4回、4 年生5回、5 年生3回、6 年生2回</p>	
事業の総合評価	
<p>各校で様々な読書習慣の確立の取り組みを図っている。今後も、読書習慣の確立に向けて、興味関心を高める図書環境整備及び児童生徒へのブックトークなどの活動を支援していく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	3 教職員の資質向上
事業名	研究指定校事業
事業の目的	集中的、先進的な取組を実践し、還元することにより、いなべ市全体の教育水準を向上させる。
事業の概要	学力向上や特別支援教育など今日的な教育課題について、先進的な研究を進め、発表会等を行うことにより研究成果を市内各校に広める。 (1)小中一貫教育の研究校の指定 (2)今日的な教育課題への先進的な研究校の指定
H29 年度 の事業内容	(1)藤原、員弁中学校区の小中一貫教育研究の指定 (2)十社小学校のICTを活用した授業づくり研究の指定
事業の実績・成果	
<p>国際化の進展や社会の変化に柔軟に対応できる能力を育成し、いなべ市全体の教育水準を向上させるために、集中的、先進的な取組を実践する学校を研究指定校として委嘱し、発表会等を行うことにより研究成果を市内各校に還元することにより、いなべ市全体の教育水準の向上を目指した。</p> <p>(1)研究指定を委嘱した学校とテーマ</p> <p>ア 十社小学校 言語活動の充実と思考力・表現力の育成をめざして ～ICT 機器を含むシンキングツールを効果的に活用して～</p> <p>イ 員弁中学校区 「深い学び」が実現される授業作り ～思考力・表現力・自己肯定感・自己有用感の育成を目指して～ ～小中一貫教育を手法として～</p> <p>ウ 藤原中学校区 統合による小中一貫教育校での 9 年間を見通した授業および生活指導の研究と実践 ～児童・生徒のつながりを大切に、日々の子どもの笑顔を求めて～</p> <p>(2)研究発表会の開催と参加者数</p> <p>ア 十社小学校 11月17日(金) 参加者数 72人 イ 員弁中学校区 11月10日(金) 参加者数 121人 ウ 藤原中学校区 11月8日(水) 参加者数 177人</p>	
事業の総合評価	
小中一貫教育の主体を中学校区とすることで、各校区特色ある教育が実施され、その取り組みを支援することができた。ICT 教育については、学習意欲及び基礎学力の向上に成果が見られたため、市内全小学校においても拡充を図っていく。	

教育振興ビジョン 基本理念	3 教職員の資質の向上
事業名	教育内容充実事業
事業の目的	学校に必要な教育情報、全国の実践情報等を収集し、より適切な学校運営を行う。
事業の概要	(1)複雑化、多様化する教育課題や年々変化していく教育情勢に学校長が迅速かつ的確に対応するための支援を行う。 (2)学校経営の改革及び改善を目指すため校長会、教頭会、いなべ市教育研究会、郡市健康研究会、郡市特別支援教育研究会、事務研究会等に支援を行う。
H29 年度 の事業内容	各種教育団体の活動支援（校長会、教頭会、市教育研究会、健康研究会、郡市特別支援教育研究会、事務研究会）
事業の実績・成果	
<p>(1)校長会</p> <p>ア いなべ市校長会 定例会議 開催回数 12 回</p> <p>イ その他校長会(県校長会、全国校長会、東海北陸校長会、特別支援学級設置校長会)</p> <p>(2)教頭会</p> <p>ア いなべ市教頭会 定例会議 開催回数8回</p> <p>イ その他教頭会(県教頭会、全国教頭会、東海北陸教頭会)</p> <p>(3)いなべ市教育研究会</p> <p>ア 研修委員会 参加担当者 28 人 実施回数5回</p> <p>イ 運営委員会 参加担当者 13 人 実施回数8回</p> <p>ウ 中学校区 WG 会議、参加者(校長会代表、教頭会代表、小中一貫教育コーディネーター、研修委員)</p> <p>(4)郡市健康研究会</p> <p>実施回数 14 回、学習会 講演会「不登校の問題に取り組む～基本を押さえる～」加藤裕子先生</p> <p>(5)郡市特別支援教育研究会 負担金 37,500 円(2,500 円×15 校)</p> <p>あすなろキャンプ、あすなろ運動会</p> <p>(6)事務研究会</p> <p>郡市事務研究会5回、三重県事務研究会3回、東海北陸事務研究会1回、全国大会1回(3日間)</p> <p>(7)小学校英語力向上事業</p> <p>ア 目的 小学校外国語活動及び外国語科の授業力を向上するために英語の研修を実施した。</p> <p>イ 内容 (1回 80 分×24 回×同一日2クラス開催)×2</p>	
事業の総合評価	
<p>校長会をはじめとする各団体の研究会及び協議会への参加については、今日的な教育課題解決のための情報交換の場として非常に重要な機会となっている。今後も、助成を継続していくが、負担額については、近隣市町の状況を参考にしながら、各種機関及び団体との協議を行っていく必要がある。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	3 教職員の資質の向上
事業名	教育研究所事業
事業の目的	教職員の資質及び指導力の向上及び学校の組織力の向上を図る
事業の概要	(1) 研究事業（教育課題の研究、調査統計及び資料作成、研究まとめ） (2) 研修事業（夏期研修講座、出前研修、講演会） (3) 教育支援事業（教育相談、教育資料提供） (4) 広報活動事業（要覧作成、研究所たより発行）
H29 年度 の事業内容	喫緊の教育課題の研究、教育課題に対応する研修講座を実施し、各校及び関係機関へ発信する。
事業の実績・成果	
<p>(1) 研究事業</p> <p>下記の研究を実施し、研究紀要にまとめるとともに、各校へ研究成果を発信した。</p> <p>ア 「子どものアセスメントをもとにしたユニバーサルデザインの授業づくり」</p> <p>イ 「一人ひとりの自己実現を可能にする人権教育」</p> <p>(2) 研修事業</p> <p>27 の研修講座を実施し、のべ 1,231 名の教職員の参加を得た。講座受講者のアンケート結果からは「大変満足」「概ね満足」の回答が合わせて 95%となった。また、約 90%の教師が「研修講座で学んだことを活用できた」と回答した。</p> <p>(3) 教育支援事業</p> <p>各校の研修ニーズに合わせて研修先や講師を紹介した。「いなべ市児童生徒意識調査」「全国学力・学習状況調査」結果を分析し、その結果を関係機関及び関係各校へ提供した。</p> <p>(4) 広報活動事業</p> <p>5月に要覧を発行した。毎月1回研究所たよりを発行し教育情報を発信した。</p>	
事業の総合評価	
<p>研修講座の満足度は高く、学んだことを活用している教師が多いが、個人の受講にとどまることが多く、学校全体での研修にまで至っていない。若手教職員の育成を図るため、より多くの教師が研究成果や研修講座での学びを活用できるようにする工夫や仕組みが必要である。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	2 創意と活気に満ちた特色ある学校づくりの推進
事業名	放課後児童健全育成事業
事業の目的	おおむね 10 歳未満の児童(放課後児童)に対し、家庭及び地域連携の下、授業の終了後に適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図る。
事業の概要	(1)市内放課後児童クラブへの支援及び指導を行う。 (2)「いなべ市放課後児童健全育成事業補助金交付要綱」及び「いなべ市放課後児童クラブ委託基準」に基づき、補助金及び委託料の交付を行う。 (3)市内放課後児童クラブ設置数 11 クラブ(H29 年度現在)
H29 年度 の事業内容	市内放課後児童クラブへの支援及び指導を行う。
事業の実績・成果	
<p>市内放課後児童クラブへの支援及び指導を行った。「いなべ市放課後児童健全育成事業補助金交付要綱」及び「いなべ市放課後児童クラブ委託基準」に基づき、補助金及び委託料の交付を行った。</p> <p>放課後児童クラブ名(利用児童数、学校区)</p> <ul style="list-style-type: none"> はっぴーきっず(17 人、治田小学校) なかよしハッピーきっず(35 人、山郷小学校) すきっぷきっず(19 人、阿下喜小学校、十社小学校) さくらんぼ(30 人、三里小学校) スプリング(44 人、員弁西小学校) サクラ(16 人、員弁東小学校) いしぐれっこ(30 人、石樽小学校) Smile(21 人、笠間小学校) おおざくら(13 人、丹生川小学校) 真名(4 人、藤原小学校) ふじっこクラブ(12 人、藤原小学校) 	
事業の総合評価	
<p>平成 29 年度は3クラブ増え、合計11クラブに委託を行った。委託に際しては、登録児童数、開設日数など厚生労働省基準に準じた委託契約を締結し、児童の健全な育成支援することができた。施設の老朽化、支援員の確保など各クラブの課題に対して、支援を行っていく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	4 青少年の夢を育む地域づくりの推進
事業名	青少年健全育成市民活動事業
事業の目的	地域社会の育成能力を引き出し、青少年の健全育成を図る。
事業の概要	(1) 非行防止防犯パトロール及び有害環境浄化活動の実施 (2) 育成員研修会及び青少年参加体験事業の開催 (3) 市青少年育成市民会議事務局運営委託
H29 年度 の事業内容	青少年健全育成の推進及び青少年育成市民会議事務局運営委託の継続
事業の実績・成果	
<p>(1) 青少年健全育成事業委託料 4,296,029 円(委託先 いなべ市青少年育成市民会議)</p> <p>ア 「地域で見守る！子どもの安全安心を考える集い」 川越自動車学校による交通安全講話及びいなべ警察署によるスマートデバイスの講話 北勢中学校及び藤原中学校の全生徒を対象に開催</p> <p>イ 「ふれあう心のメッセージ募集」 市内児童、生徒を対象にメッセージを募集 応募数 3,227 点</p> <p>ウ 「こどもをまもるいえ設置運動」 児童及び生徒が安全に登下校できるように地域の協力によって設置 平成 30 年3月末現在、市内 903 箇所の個人宅又は事業所等が設置に協力</p> <p>エ 「巡回指導(夏季、冬季、春季)」「未成年者喫煙防止キャンペーン」 市青少年育成市民会議推進員による非行防止啓発のため市内大型商業施設の巡回 未成年者喫煙防止キャンペーン時の啓発物品配布</p> <p>(2) 青少年育成市民会議事務局業務委託料 2,000,000 円(委託先 放課後子ども教室ほくせい)</p>	
事業の総合評価	
<p>いなべ市青少年育成市民会議として、青少年の健全育成事業はもとより、事務局運営も市民の自主的な活動によって行われるようになった。青少年の健全育成を図る上で、地域の活動に根ざした市民会議の組織力は不可欠であり、今後も、同団体に青少年健全育成事業を効率的に委託するとともに、家庭、学校、地域の連携によって青少年の健全育成を図る。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	4 青少年の夢を育む地域づくりの推進
事業名	放課後子ども教室事業
事業の目的	子どもの居場所を確保し、子どもの社会性、協調性及び自立性を育み活動機会の創出を図る。
事業の概要	地域の多様な人々の参画を得て、子どもたちとともに学ぶ学習、スポーツ、文化活動等の取り組みを支援するため次の事業を行う。
H29 年度 の事業内容	放課後子ども教室事業運営委託の継続
事業の実績・成果	
<p>放課後子ども教室事業運営委託料 1,440,000 円</p> <p>各教室の登録者数</p> <p>いなべコミュニティスクール レギュラスクール 1,962 人、オープンスクール 1,267 人 合計 3,229 人</p> <p>放課後子ども教室「ほくせい」 レギュラスクール 3,430 人、オープンスクール 2,357 人 合計 5,787 人</p> <p>西っ子夢くらぶ レギュラスクール 36 人 合計 36 人</p>	
事業の総合評価	
<p>放課後子ども教室ほくせい、いなべこども活動支援センター、員弁西小学校内西っ子夢くらぶがそれぞれ地域の教育力を生かした子どもの居場所づくりに貢献している。各教室への参加者も多く、学校などの教育機関と連携しながら休日や夏休みなどの長期休暇を利用して、感性豊かな子どもの育成を行えるよう支援を続ける。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	5 生涯学習の充実
事業名	国際交流活動支援事業
事業の目的	異文化の理解を深めるとともに、地域社会における多文化共生を図る。
事業の概要	(1)いなべ市国際交流協会に対する活動費助成 (2)市内中学生海外派遣及び海外中学生受け入れ
H29 年度 の事業内容	いなべ市国際交流協会補助金交付要綱に基づく補助金交付
事業の実績・成果	
(1) いなべ市国際交流事業補助金 4,019,958 円 (2) 中国濮陽市中学生交流団受け入れ 17 人 (3) タスマニア交流団受け入れ 12 人 (4) 海外紹介及び啓発事業 (5) ネパール交流会、タイ舞踊交流会、ペルー交流会、インドカレーづくり (6) 語学講座(英語8クラス、中国語2クラス、韓国語1クラス、にほんご広場4クラス)開講	
事業の総合評価	
国際化に対応する施策の一つとして、いなべ市国際交流協会への活動費補助を行っている。いなべ市国際交流協会は、地域レベルの草の根交流活動を活発かつ効率的に行っており、引き続き同協会の活動を支援する。	

教育振興ビジョン 基本理念	5 生涯学習の充実
事業名	生涯学習活動推進事業
事業の目的	住民の学習、教養及び技能習得に資する学習機会及び学びのきっかけを提供する。
事業の概要	個人の知識の習得や自己実現を支援する各種講座を定期的を開催する。講座内容は、受講者アンケートの結果を基に招聘した外部専門講師による短期講座。
H29 年度 の事業内容	市民大学講座(8講座)開催及びアンケートによる学習ニーズの把握
事業の実績・成果	
<p>(1)いなべ市民大学講座(全 8 回)</p> <p>受講者総数 608 人、会場 員弁コミュニティプラザ</p> <p>ア 生き方、考え方講座 1回(52 人)</p> <p>イ 健康、生活講座 1回(125 人)</p> <p>ウ 環境、科学講座 1回(52 人)</p> <p>エ 文化、歴史講座 2回(127 人、64 人)</p> <p>オ 趣味、生きがい講座 2回(54 人、93 人)</p> <p>カ 教養、マナー講座 1回(38 人)</p> <p>(2)アンケートによる学習ニーズの把握</p> <p>市民大学講座開催時に受講者に対しアンケートを実施し、延べ 547 人から回答を得た。</p>	
事業の総合評価	
<p>市民の学習意欲の高まりにより、自らが学習し教養を深めることのできる環境をつくるため、年間を通じて定期的に事業を開催した。講座受講者は平均で約8割を得ており、年齢は 10 代から 90 代と幅広く参加されている。また、初めて参加した受講者は約 1/3 を占めた。今後も、市民の学習ニーズを把握し、時代や社会情勢の変化に即応した学習内容や情報提供を行うと同時に、より一層幅広い世代が参加できるよう取り組んでいく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	5 生涯学習の充実
事業名	文化施設等管理運営事業
事業の目的	安全で快適に利用できる施設の維持管理及び運営を維持する。
事業の概要	(1)文化施設4施設の維持管理 (2)文化施設一般利用受付及び貸し出し管理業務
H29 年度 の事業内容	施設維持管理及び運営の継続
事業の実績・成果	
<p>(1)保守管理業務</p> <p>自家用電気工作物保安管理、空調設備保守点検、消防設備保守点検、移動観覧席保守点検、施設内清掃、植栽手入れ除草等環境整備、舞台照明設備保守点検、ホール音響設備保守点検、舞台機構保守点検、施設警備保障業務、自動ドア保守点検、昇降機保守点検、危険物施設定期点検、ボイラー排気ガス点検、貯水槽及び水質検査業務、AED 借上げ</p> <p>(2)施設使用(予約)受付業務</p> <p>ア シルバー人材センター施設受付管理業務委託</p> <p>イ 施設予約システム運用</p> <p>ウ 施設利用者数</p> <p>北勢市民会館 35,737 人</p> <p>員弁コミュニティプラザ 33,197 人</p> <p>大安公民館 37,600 人</p> <p>藤原文化センター31,993 人</p>	
事業の総合評価	
<p>施設及び設備の保守点検を例年どおり計画的に行った結果、一般利用に支障を来たような不備や事故などの事案は発生していない。限られた予算の範囲で利用者からの要望に応えるとともに、施設等の設置又は管理の瑕疵が発生することのないように適切な管理運営に努める。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	5 生涯学習の充実
事業名	図書館利用促進事業
事業の目的	市内4図書館の図書資料情報を一元管理し、住民の読書活動を推進する。
事業の概要	(1) 図書館利用促進のためのイベント及び広報活動 (2) 図書館に配置する司書又は司書補資格を有する職員による館内カウンター業務
H29 年度 の事業内容	図書館事業の充実及び利便性向上施策の継続
事業の実績・成果	
<p>(1) 図書館情報管理システムの運用 稼働日数 356 日、蔵書検索数 249,383 件、資料予約数 4,165 件、利用状況の確認等 194,241 件</p> <p>(2) 図書館間流通資料配送冊数(冊) 市内にある4つの図書館間での資料配送を週3回実施することで、効率的な資料の活用を行った。 平成 29 年度 39,591 冊</p> <p>(3) 図書館が実施した主な事業 ア 通年実施 北勢おはなし会、くまのこおはなし会、こだまおはなし会及びたんぽぽおはなし会 参加者 1,293 人 イ 4 月実施 子どもの読書週間行事「わらべうた」 参加者 49 人 6 月実施 あじさいおはなし会 参加者 45 人 7 月実施 おはなし会&お楽しみ会 参加者 34 人 9 月実施 腹話術劇団「はたいも」によるお楽しみショー 参加者 33 人 11 月実施 図書館まつり～おやこブクフェスティバル 参加者 265 人 3 月実施 図書館リユース会 参加者 456 人(4,610 点リユース) 3 月実施 人形劇「おはなしのビー玉」 参加者 77 人</p> <p>(4) 施設別の貸出冊数及び登録者数 ア 北勢図書館 69,300 冊、員弁図書館 9,448 冊、大安図書館 64,816 冊、藤原図書館 32,180 冊 イ 北勢図書館 5,718 人、員弁図書館 3,165 人、大安図書館 6,331 人、藤原図書館 2,383 人</p>	
事業の総合評価	
蔵書検索や貸出し予約サービス利用者は、利用促進PR活動によって順調に伸びている。これによって図書館間の資料配送事業も効率が上がっている。今後も、図書館ボランティアと連携して子ども読書活動を推進し、図書館の利用促進を図っていく。	

教育振興ビジョン 基本理念	6 文化芸術活動の充実
事業名	文化芸術活動推進事業
事業の目的	市民の自主的な文化芸術活動を支援する。
事業の概要	(1)いなべ市文化協会への地域文化振興業務及び市民祭企画運営業務委託 (2)いなべ市和太鼓協会への和太鼓芸能普及振興業務委託
H29 年度 の事業内容	市民及び各種文化芸術団体の自主的な活動支援の継続
事業の実績・成果	
<p>(1) 地域文化振興業務委託料 13,550,000 円</p> <p>ア 「第7回文化協会長杯争奪 囲碁将棋大会」 県内外の小学生から 80 歳台までが参加 囲碁4クラス、将棋4クラススイス方式で順位を決定(参加者数 133 人)</p> <p>イ 「さくらピアノコンクール」 ピアニストを目指す未就学児から一般までを対象にしたアマチュアピアノ コンクール(参加者数 130 人)</p> <p>ウ 「宝くじ文化公演 映画音楽とオペラアリアへの誘い～桂米園治の弁士の物語～」 オーケストラと声 楽家のオペラを織り交ぜたコンサート(入場者数 480 人)</p> <p>エ 「1966 カルテット クリスマスコンサート」 いなべ市出身ヴァイオリニスト花井悠希所属の「1966 カル テット」による凱旋コンサート(入場者数 624 人)</p> <p>オ 「名フィルのオーケストラ傑作選 Vol.7」 いなべ市親善大使川瀬賢太郎指揮による名古屋フィルハー モニー交響楽団定期演奏会(入場者数 683 人)</p> <p>カ 市民祭企画運営委託料</p> <p>(ア) 展示発表(9/30～10/2、10/7～9、出展 43 サークル 452 人、個人 13 人、来場者数 1,318 人)</p> <p>(イ) 舞台発表(11/26、24、24 サークル 252 人、596 人来場、3/4、23 サークル 290 人、621 人来場)</p> <p>(2) 和太鼓芸能普及振興業務委託料(900,000 円)</p> <p>いなべ市和太鼓協会 10 周年記念公演</p>	
事業の総合評価	
<p>市文化協会をはじめとする文化芸術団体は、地域の人々がより主体的に文化芸術活動が行えるように 情報を発信し、成果発表の機会を提供している。本市の文化芸術の振興を図るため、文化芸術活動を行う 市民の自主性を尊重しつつ、文化芸術を市民の身近なものとし、包括的に文化芸術活動支援事業を推進 していく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	4 健やかに育ち個性が輝く人づくり
事業名	埋蔵文化財調査記録保存事業
事業の目的	地下に存する埋蔵文化財の情報及び保護に関する手続を周知し、保護協議の上、必要に応じて記録保存等の必要な保護措置をとる。
事業の概要	(1)市ホームページ地理情報(遺跡情報)による遺跡情報公開 (2)埋蔵文化財有無照会回答 (3)庁内各部署公共工事計画把握 (4)埋蔵文化財包蔵地内土木工事等にかかる保存協議及び対応
H29 年度 の事業内容	(1)埋蔵文化財範囲確認調査、保護協議 (2)埋蔵文化財本発掘調査整理作業
事業の実績・成果	
<p>(1) 埋蔵文化財包蔵地内土木工事保護措置件数</p> <p>ア 範囲確認調査 2件</p> <p>イ 工事立会 25 件</p> <p>ウ 慎重工事 3件</p> <p>(2) 範囲確認調査重機借上料 97,200 円</p>	
事業の総合評価	
<p>埋蔵文化財包蔵地内の開発について市開発部局とも情報を共有し、専門的知識及び技術を有する職員により、適切な埋蔵文化財の保護を行った。</p> <p>今後も、発掘調査や出土遺物の整理作業を円滑かつ効率的に実施できる体制を構築し、埋蔵文化財包蔵地等で開発又は建設工事を行う際の手続きについてもより一層の周知を行っていく。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	6 文化芸術活動の充実
事業名	国重要文化財等保存活用促進事業
事業の目的	国指定天然ネコギギの飼育増殖及び放流事業並びに郷土史の調査研究及び展示 収蔵品を管理する。
事業の概要	(1) 文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、天然記念物ネコギギ保護管理指針(平 成 17 年三重県)に基づく業務 (2) 歴史文化、郷土資料収集、展示及び調査研究等並びに設備等の保全又は修繕
H29 年度 の事業内容	(1) ネコギギ生息状況及び生息環境調査並びに個体飼育増殖の継続 (2) 文化資料保存施設維持管理運営の継続
事業の実績・成果	
<p>(1) ネコギギ飼育増殖業務委託</p> <p>ア 近鉄レジャーサービス株式会社 志摩マリンランド(志摩市)</p> <p>イ 滋賀県立 琵琶湖博物館(滋賀県草津市)</p> <p>ウ 国立研究開発法人 水産総合研究センター増養殖研究所(度会郡玉城町)</p> <p>エ (株)江ノ島マリンコーポレーション 世界淡水魚園水族館アクア・トギふ(岐阜県各務原市)</p> <p>(2) ネコギギ飼育繁殖実績 ネコギギ 400 匹超ふ化繁殖成功</p> <p>(3) 国登録有形文化財(建造物)桐林館耐震診断業務</p> <p>(4) 桐林館玄関(昇降口)前二宮尊徳(金次郎)像移設工事</p> <p>(5) 旧校長室奉安庫移動</p> <p>(6) 郷土資料館年間入場者数 1,208 人</p>	
事業の総合評価	
<p>ネコギギ保護増殖事業は、市直営施設及び飼育増殖委託機関での人工ふ化で成果を上げている。河川 護岸等の災害復旧工事にあわせてネコギギをはじめとする魚類の生息環境に配慮した工法が取り入れら れるなど、建設部局等の協力が得られる体制が構築されている。</p> <p>いなべ市郷土資料館の収蔵品は、社会科校外学習に利用され、多くの児童が来館している。</p> <p>国登録有形文化財(建造物)の桐林館は、昭和中期の教室復刻を行うなどした結果、市内外からの来館 者が増加し、文化財保護の普及啓発に寄与している。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	7 総合的なスポーツの推進
事業名	地域スポーツ推進事業
事業の目的	スポーツを通して「人と人」「地域と地域」の交流を促進する。
事業の概要	(1)いなべ市体育協会への地域スポーツ振興業務等委託 (2)いなべ市スポーツ推進員による住民へのスポーツ推進のための指導助言 (3)美し国三重市町対抗駅伝大会出場選手派遣
H29 年度 の事業内容	市民及び各種スポーツ団体の自主的な活動支援の継続
事業の実績・成果	
<p>(1)地域スポーツ振興業務委託料 18,000,000 円</p> <p>ア 「いなべ市体育協会加盟各種団体大会等開催」 協会加盟 23 競技団体活動費助成</p> <p>イ 「いなべ市スポーツ少年団本部加盟各種団体大会開催」 本部加盟 11 競技団体活動費助成</p> <p>(2)いなべ市スポーツ推進委員協議会スポーツ推進活動（出場 一般 38 チーム、小学生4チーム）</p> <p>ア ニューススポーツ講習会（自治会体育行事及び団体健康増進事業 年5回 参加者 692 人）</p> <p>イ ヘルスバレーボール大会（市子連共催 参加者約 350 人参加チーム）</p> <p>(3)美し国三重市町対抗駅伝参加事務事業委託料 1,500,000 円（委託先 いなべ市体育協会）</p> <p>ア 代表選手選考会（デンソー大安製作所内陸上競技場）</p> <p>イ 駅伝コース試走</p> <p>ウ 代表選手結団式</p> <p>オ 大会開催日及び大会コース 2月 18 日（日）、三重県庁前～三重交通 G スポーツの杜伊勢</p>	
事業の総合評価	
<p>いなべ市体育協会は、各競技団体の競技力向上を図るため、年間を通じて各種大会及び研修会を開催しており、その成果の一つとして、平成 29 年度中に、いなべ市スポーツ競技全国大会等出場賞賜金の交付対象となった人数が延べ 96 人に達している。今後も、体育協会への業務委託を通じて市内アマチュアスポーツ団体及びスポーツ少年団活動の支援を行っていく。</p> <p>スポーツ推進委員協議会によるニューススポーツ及び軽スポーツの普及活動並びに美し国三重市町対抗駅伝は、参加者数及び順位結果の面で一定の成果を上げており、今後も継続してこれらに取り組む。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	7 総合的なスポーツの推進
事業名	スポーツ施設管理運営事業
事業の目的	安全で快適に利用できる施設の維持管理及び運営を維持する。
事業の概要	(1)社会体育施設 22 施設の維持管理 (2)社会体育施設一般利用受付及び貸し出し管理業務 (3)施設及び関連設備の修繕
H29 年度 の事業内容	施設維持管理及び運営の継続
事業の実績・成果	
<p>(1) 保守管理業務</p> <p>ア 自家用電気工作物保安管理、電気照明設備保守点検、空調設備保守点検、消防設備保守点検、移動観覧席保守点検、運動場・グラウンド・テニスコート整備、施設トイレ等清掃、植栽手入れ除草等環境整備、プールろ化装置保守点検、プール管理監視、小型船舶定期検査、AED 借上げ</p> <p>イ 施設運営備品整備(サッカーゴール、スポーツベンチ、バレーボール等支柱)</p> <p>(2) 施設使用(予約)受付業務</p> <p>ア シルバー人材センター施設受付管理業務委託</p> <p>イ 施設予約システム運用</p> <p>ウ 施設利用者数 合計 233,824 人</p> <p>(3) スポーツ施設修繕事業 21,545,956 円</p>	
事業の総合評価	
<p>施設及び設備の保守点検を例年どおり計画的に行った結果、一般利用に支障を来たような不備や事故などの事案は発生していない。限られた予算の範囲で利用者からの要望に応えるとともに、施設等の設置又は管理の瑕疵が発生することのないように適切な管理運営に努める。</p>	

教育振興ビジョン 基本理念	8 自然環境の保全・充実
事業名	藤原岳自然科学館博物展示事業
事業の目的	藤原岳を中心とする鈴鹿山系の豊かな自然について紹介することにより、自然保護の重要性を普及啓発する。
事業の概要	(1)動物、植物、岩石、化石等の標本展示による藤原岳の自然の紹介 (2)市民や学校等の自然探究活動の支援 (3)自然科学研究発表会や企画展などの自然科学館事業の企画運営 (4)展示施設の維持管理
H29 年度 の事業内容	藤原岳自然科学館事業の企画運営、展示施設の維持及び管理、資料収集及び調査研究
事業の実績・成果	
<p>平成 29 年度の藤原岳自然科学館入館者数 11,682 人</p> <p>(1)企画展示事業</p> <p>ア 第 39 回児童生徒自然科学作品展</p> <p>イ 企画展「清水千佳子 ネイチャーアート展Ⅲ～鈴鹿の山に咲く花とその仲間たち～」、「秋の鳴く虫」</p> <p>(2)常設展示事業</p> <p>常設展示物の追加、交換、淡水魚飼育水槽の管理、標本の保守作業</p> <p>(3)広報活動</p> <p>ホームページで最新の情報を発信、藤原岳自然科学館パンフレットの配布、マスコミによる藤原岳自然科学館の紹介、館報の発行</p> <p>(4)学校、教育機関等における理科学習等の支援活動</p> <p>市内小中学校での学習支援活動、教育研究所や図書館とのコラボレーション事業</p>	
事業の総合評価	
いなべ市の自然を市の内外にアピールする施設として、今後も重要であるとする。	

教育振興ビジョン 基本理念	8 自然環境の保全・充実
事業名	藤原岳自然科学館自然教室事業
事業の目的	市民が当市の自然に触れる機会を設け、その素晴らしさ、貴重さを体感してもらうことにより、自然環境を守ることの重要性をアピールする。
事業の概要	(1)一般市民を対象とした自然教室の開催 (2)自然科学研究の成果の発表の場の提供
H29 年度 の事業内容	自然教室の開催(20 講座程度)、児童生徒自然科学作品展の開催、児童生徒自然科学研究発表会の開催
事業の実績・成果	
<p>(1)藤原岳自然科学館自然教室 18 講座、326 人参加</p> <p>(2)連続講座 6 講座、102 人参加</p> <p>(3)児童生徒自然科学研究発表会 1 回、5 組(8 人)参加</p> <p>(4)広報活動 毎回の自然教室の実施後、その様子を市のホームページに掲載</p>	
事業の総合評価	
物理学や工学などに比べると地味な分野であるかもしれないが、自然環境を考えることは大事であるため、今後も引き続き取り組んでいく必要があると考える。	

教育振興ビジョン 基本理念	5 生涯学習の充実
事業名	屋根のない学校事業
事業の目的	「屋根のない学校」施設を拠点として、自然を活かした暮らしや遊びを子どもたちに体験してもらう講座を開設する。
事業の概要	(1)体験講座の開設 (2)拠点施設「屋根のない学校」の維持管理
H29 年度 の事業内容	(1)体験講座実施:6講座×各 10 回 (2)施設の維持管理
事業の実績・成果	
<p>(1)体験講座の開設</p> <p>自然の中で自然に親しみ自然に触れる体験活動や地域の歴史、文化に触れる活動を通じて、五感を育み感性豊かな子どもを育てるため、「びっくり生きものアラカルト」「昆虫と遊ぼう」「人びとの命とくらしを守る植物」「この指と～まれ」「田んぼと畑の学校」「自然とふれあって遊ぼう」の6つの講座を、1年を通して開設した。各講座の受講者が交流する合同講座も含めて、6講座で 62 回開催し、延べ 878 名の参加があった。</p> <p>(2)事業費の概要</p> <p>ア 臨時雇賃金 4,023,502 円:非常勤職員 2人 イ 講師謝礼 540,500 円:市内講師(3人)7,000 円/回、市外講師(3人)8,000 円/回 ウ 消耗品費 323,829 円:講座用材料、事務用品、施設管理用品 エ 光熱水費 178,278 円:電気使用料、上下水道使用料、LPガス使用料 オ 保守管理委託料 149,919 円:浄化槽点検清掃、消防設備点検</p>	
事業の総合評価	
参加者アンケートによると、講座内容の満足度は高く、継続実施を望む声が多いため、今後も引き続き取り組んでいく必要があると考える。	

学識経験者の意見

1 判定結果

教育委員会の具体的な事業について、年度ごとに作成している「いなべ市教育要覧」を資料とし、点検及び評価を行った結果、平成 29 年度事業の実施状況は、おおむね適切であると判定します。

2 質問と総括

(1) 質問

ア 外国人英語指導事業についてです。小学校で、本格的に英語の授業が始まりました。授業を見せてもらったのですが、ALT（外国人英語指導助手）の先生が、インドネシアの男性の方でした。日本語もとても上手で、子どもたちとのコミュニケーションもとれていました。事業の総合評価に「質の高いALTの確保が課題である。」とありますが、ALTの国籍は、英語圏でなくても、能力的には十分だということですか。

（事務局）ALTは、いろいろな国籍の方がいます。ALT派遣業者の選定の際に、プロポーザル方式で日本語も喋れるという条件を付けてプレゼンを行い、より質の高いALTを派遣してもらえる業者を選びました。国籍はいろいろですが、ALTの質については、満足していると言えます。

イ 小学校の英語指導についてです。中学校には、英語科の教師がいますが、小学校の担任の先生が、英語の授業をするのは、とてもハードルが高くて大変だと思います。教員向け研修を8回実施したとのことですが、小学校の先生に負担がかかっているのではないですか。小学校で英語が嫌いになることがないように、中学校へ送り出してもらいたい授業をお願いします。

（事務局）小学校の先生の負担はあります。負担を減らすために、担任を補助するALTを各校に配置しています。また、英語の授業をどのように進めていけばよいのかという研修も実施しています。英語の教科書はありますが、英語カリキュラム編成委員会という委員会で、よりわかりやすい授業をどのように展開するのかという研究をしています。その研究レポートを作成して、先生方に配布しています。

三重県教育委員会も教員の英語力向上の様々な取り組みを行っており、いなべ市独自の取り組みと合わせて、先生方の英語指導を支援しています。しかし、今まで小学校では英語の授業というのはなかったもので、先生方の精神的な負担は大きいことから、今後も、十分な研修を行っていきたいと考えています。

また、いなべ市は小中一貫教育に取り組んでおり、「9年間で子どもたちに確かな学びと育ちを」ということを目標にしています。小学校の英語と中学校の英語を、きちんと系統立てて、9年間で子どもたちに力をつけていけるように進めていきたいと考えています。

ウ 学力フォローアップ事業についてです。「学び舎」事業は、家庭に課題をかかえている子や経済的な課題のある子が、放課後に学校で学べるので、大変評価できます。家に帰っても宿題ができないという状況にある子たちを支援してもらっていることは、素晴らしいことだと思います。今後、学び舎を拡充していくとのことですが、どのような構想を持ってみえるのですか。

(事務局) 学び舎は、阿下喜小学校と三里小学校で週 2 日実施しています。現在、放課後に補習学習を行ったり、夏休みを利用して補習学習を行っている学校がありますので、平成 30 年度は、試行的に、その補習学習に登録しているアドバイザーの方に参加してもらい、担任と一緒に補習学習をすることを考えています。

学び舎は、家庭での学習習慣を身につけることが目的です。学び舎という場を通して、子どもたちの学習支援を行い、最終的には、一人ひとりの子どもたちが、家庭学習を進めていけるように育てていきたいと考えています。

エ 学校給食についてです。最近「食の安全」に関することが、厳しくなってきました。そんな中、自校式で学校給食を提供している北勢町の 4 校は、とても努力してみえることと思います。今後は学校給食センターに統合する方向で検討しているとのことですが、具体的に何年後に給食センターに統合するのか、計画があれば教えていただきたい。

(事務局) 自校式の学校では、これから先、給食設備が老朽化などで更新する時期がきます。給食設備の更新はかなりの経費がかかるので、その際に、給食センターへ統合できればと考えています。4 校を一斉に統合するのではなく、徐々に給食センターへの統合を進めていきたいと思っています。

また、自校式の学校では、給食業務は学校の先生の仕事になっています。給食センターに統合されれば、給食業務の効率化が図られ、先生の負担の軽減に繋がるのではないかと考えています。

オ 藤原町の小学校が統合されましたが、旧立田小学校で地域の方と子どもたちが一緒になって取り組んでいたホタルの飼育は、どうなったのですか。藤原町の旧小学校で何十年もかけて培われてきた取り組みが、小学校の統合で終わってしまうのは寂しいと感じますので、地域の方に引き継いでもらうことはできませんか。

(事務局) ご指摘のとおりだと思います。

小学校が統合されたことで、それぞれの学校の特色もひとつになり、これまで歴史を持ってやってきたことが途絶えてしまうという危惧がありました。そこで、平成 29 年度にコミュニティスクール推進事業として、「藤原小学校コミュニティスクールを考える会」を立ち上げ、旧小学校区の今まで尽力いただいた地域の方に委員としてお世話になりました。話し合いの結果、これまで大事にしてきたもので残せるものについては、学校や地域で残していくことになりました。平成 30 年度は、「コミュニティスクール準備委員会」を設置して活動を進めていく予定です。

例えば、旧西藤原小学校の「いもち送り」行事は、コミュニティスクール準備委員会が事務局になって、行事を継続してもらうことになりました。主体となるのは地域の方ですが、旧の学校区を取り払って、藤原小学校区すべての子どもが参加できるように案内を出しました。今後も、旧小学校区で残していける地域の行事は何かを考え、藤原町すべての子どもが参加できるしくみづくりを進めています。

カ 学援隊事業についてです。学援隊の登録人数は 1,500 人を超えているとのことで、登下校の見守りなど、子どもたちの安全を守る体制が整ってきていることに安心しています。しかし、登下校の見守りをしていると、通学路横の田んぼの麦が伸びる季節に、低学年の児童が麦に隠れて自動車から見え難い危険な箇所があります。普段見過ごしてしまいそうな危険な箇所を知らせるものがあると良いと思いますが、いかがですか。

(事務局) 通学路の交通安全対策については、教育委員会、いなべ市建設部、いなべ警察署、三重県の道路所管部署が集まって協議を行っています。通学路の防犯上の危険箇所についても協議をし、対策を行っています。例えば、看板を立てる、樹木が生い茂っているところは伐採するなどです。

学校でも、年に一度、いなべ警察署に来てもらい防犯教室を実施しています。また、不審者の情報があったときには、「スクール@（アット）めーる」などで、保護者に啓発しています。

また、「こどもをまもるいえ」を地域の方に協力していただいて設置するなど、いろいろな形で子どもたちの安全安心を守る取り組みを行っています。今後も、いざという時にそれぞれがきちんと機能するように、各関係機関と連携を取り合って進めていきたいと考えています。

キ 大阪北部地震において、小学校のブロック塀が倒壊して女児が死亡する事故がありました。もしも、いなべ市でこのような大きな地震が起きたらと考えると、子どもたちの通学路は危険なところがたくさんあると思います。通学路に面して塀がたくさんありますが、どれも古いものばかりです。道の片側だけでなく、両側が塀というところもあります。危険な塀は撤去するのが望ましいと思いますが、費用がかかります。通学路なので、撤去の工事費の補助金があると良いと思うのですが、通学路の安全の確保という観点で、何か事業を考えていただけないでしょうか。

(事務局) 地震発生後、教育総務課が市内の学校敷地内にあるブロック塀の調査を行いました。北勢中学校に、テニスの壁打ち用のブロック壁が2箇所あり、すでに撤去を完了しています。山郷小学校に、投てき板が1箇所あり、これはグラウンド内にありますので、夏休み中に撤去する予定で、現在は、立ち入り禁止にしています。藤原中学校にテニスの壁打ち用の壁が1箇所あり、グラウンド内ですので夏休み中に撤去する予定です。こちらも現在は、立ち入り禁止にしています。

ブロック塀以外にも、石柱、石碑、石像も倒れてくる危険がありますので、注視しているところです。撤去したいのですが、歴史的なものばかりなので、残して欲しいという声

もあり、対策を検討中です。

学校教育課では、通学路の安全点検と危険箇所の把握を行っています。子どもたちには、「落ちてくる、倒れてくる、移動するものの近くに寄らない。」という指導をしています。通学路上の危険箇所については、第1次避難地、第2次避難地を決めて、そこに集まるように子どもたちに伝えています。

撤去の工事費用の補助金は、今のところはありません。自治会や保護者の方と協力しながら、危険な箇所の持ち主に声を掛けていければと考えています。また、空き家で老朽化しているところについては、都市整備部都市整備課に連絡し、空き家の持ち主に改修の勧告をしてもらうように手続きを進めています。今後、通学路を変更することも考えていかななくてはならないと思っています。

通学路の交通安全対策として、道路設備については、以前から、教育委員会、市役所、いなべ警察署、三重県の道路所管部署で、危険箇所の改良についての協議を行っています。例えば、市道であれば建設部の予算でグリーンベルトを設置する、歩道を設置する、あるいは、警察が横断歩道を設置するなど、できるところから徐々に改良を進めています。

(2) 総括

- ア 放課後の子どもたちの支援に、とても力を入れてもらっていると感じます。放課後児童健全育成事業の放課後児童クラブ、放課後こども教室事業のいなべコミュニティスクール、放課後子ども教室ほくせい、西っ子夢くらぶなどや、藤原岳自然科学館自然教室事業、屋根のない学校事業など、いろいろな分野で、たくさんの事業に取り組んでいることは、大変評価できます。
- イ 放課後子ども教室事業についてです。子どもが、夏休みに実施されるオープンスクールに申し込みをされていて、とても楽しみにしています。子どもたちには、いろいろな体験を通して自分を知らせてもらいたいと思っているので、地域の大人と出会える場があること、知識が豊富な地域の方から学べる場があることは、大変素晴らしいと思います。また、申し込み者が多数になったときは、日程を増やすなどの配慮があり、有り難いと感じています。今後も参加したい事業なので、継続していただきたいと思います。
- ウ 自然学習室の事業についてです。藤原岳自然科学館の児童生徒自然科学作品展に出展したり、自然教室や屋根のない学校の講座に参加するのを楽しみにしている子どもたちがたくさんいるので、今後も引き続き自然に触れる機会を提供していただきたいです。
- エ 今、市内の学校に外国に繋がる子どもたちが増えています。担任の先生は、個別の対応が大変だと思います。国際化対応指導員、スクールサポーター、非常勤講師など、人的な支援はかせないと考えますので、今後も、現場の声を聞いて、支援体制を維持していただきたいと思います。

- オ P T A 連合会事業についてです。講演会を毎年開催していますが、参加者が集まりません。講演会の内容は素晴らしいのですが、どうしたら参加率が上がるのかが課題です。
- カ 笠間小学校が改築されて、子どもたちの学習環境が改善されたことは非常に評価できます。市外の学校を訪問する機会がありますが、いなべ市の学校施設はどの学校も素晴らしいと感じます。市外から大会などでいなべ市内の学校へ来た生徒が「私もこんな学校へ来たいです。」と言っていました。今後も、いなべ市の素晴らしさをアピールしてってもらいたいと思います。